

にほびこりたれば、このわたりの老いたるが孫を負い

若き女の嬰兒を抱きなどして、詣づる人多し。拝み

て詠める。おのれこのかさ(疱瘡)を病まざりければ、

いもがさ(疱瘡)を病まざる人は稀なるを稀なる数に

入るが賢さ。杖突坂を越え、母木の宿、青屋の宿を

過ぎ、泊の宿に宿りて詠める。

かねてより思ひ定めてこの里に今宵泊りと

宿り求めつ。

十九日辰の時ばかり出で立つ。海べたを過ぎ、鵜谷(宇谷)

山を打ち越え橋津、長瀬宿を過ぎ、由良の宿に来て乾飯

尔ほびこ利堂れば。此王多里の老堂る可うまごをおひ。

王可起女のみど里子を。以多起奈どし天まうづる人お本

し。を可美天よ免る。おの連此可さをやまざ利ケれば。

以も可さ越やま佐る人盤まれなるをま連奈るか春尔以

る可かしこさ。杖突坂を古え。母木ノ宿青屋の宿をす起

泊ノ宿尔や登利てよめる。

可年てよ里思ひさ多めて此里尔こよひとま利とやど里

もと免つ。

十九日 辰の時者か里出多つ。海遍多を春起鵜谷の山を

うちこえ橋津。長和瀬宿を春起由良の宿尔きて可れ以

ひ